

平成28年度 まちづくり懇談会

泉野地区会場の要旨

平成28年10月25日（火） 19:00～20:50

泉野地区コミュニティセンター 参加者 70名

市長あいさつ

市長：みなさんこんばんは。今日は本当に寒い日になりました。明日は雲が晴れると八ヶ岳が白くなっているのかなと思うところがございます。しかし明日は予報で9月中下旬並みの陽気のでだいぶ暖かくなるということでございます。寒暖差が激しいのでぜひ体調管理には十分ご注意くださいと思います。本日はお寒い中、またお忙しい中、お仕事のあとお疲れのところ、平成28年度まちづくり懇談会にご出席いただきありがとうございます。今年のテーマは茅野市の未来予想図大いに語ろうということで、10年後、どんなまちになっていたらいいかな、どんな泉野になっていたらいいかな。そんな思いを皆さんからお聞かせいただければなと思います。過日槻木の舞台「秋の会」にお招きいただきありがとうございます。残念ながら小学生の皆さんがやるところは見られなかったんですが、非常に槻木の舞台も地域の大切な文化であり伝統であると思います。10年後、あの舞台がどんな風に活用されているか、そんなことも語られることも今日のテーマではいいかなと思います。後ほど、私の方で話をさせていただき、皆さんと意見交換をさせていただきたいと思います。有意義な時間になることをご祈念申し上げまして私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

泉野地区コミュニティ運営協議会会長あいさつ

泉野地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。お疲れのところ、またお忙しいところお集りいただきありがとうございます。今日はこれまでの10年とこれからの10年ということで、皆さんは10年前何をされていたでしょうか。これからの10年は何をしていますでしょうか。何をしたいと思っているのでしょうか。こういうことは個人的に考えている方は非常に少ないと思いますが、茅野市の場合は考えないわけにはいかないもので、しっかり考えていただいて政策をやっていただくと。本日は市長さんをはじめ多くの市職員の方にお越しいただいております。一年に一度の懇談会ですので、これからの10年を思いながら大いに語っていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

—テーマと資料の説明 内容は宮川地区を参照—

観光まちづくり推進室から

高砂観光まちづくり推進室長：こんばんは。観光まちづくり出前相談会というチラシを出させていただいております。10年後という話がありましたが、おそらく10年後は一番進歩していかんだろうというのはAI、人工知能だろうと言われております。おそらく自動車の自動運転や病院

ではお医者さんじゃなくてロボットが診察してくれるとか、税務相談や金融相談をロボットがやってくれるとかは10年後の姿だろうと思います。その中で、これから本当に旅をする人が求めるのは、世がロボットで溢れるほど人と人とのふれあいや優しさやありのままの自然だったり、きれいな空気や高原で作られる野菜やお米、そばだったり、そばを手でうつ技術だったり、そういうことがこれから求められてくると思いますし、現実には、旅行するお客さんは日本人も外国人も言われているのは、暮らすように旅がしたい、という言い方をされています。地域で観光客として扱われたくない。観光客しか食べないものを食べさせられ、観光客しかいない空間に閉じ込められ、観光客しか歩いていないところを歩かされるということを、観光客が一番したくない。逆に暮らすように旅をする、地域で暮らしている皆さんとふれあいたいと思われています。この出前相談会の資料の中で、これまで観光は、第三次産業の一部で、一次、二次や他のサービス産業とは関係のない、観光事業者がやるのが観光でしたが、これからは農業従事者、商店街、地域で暮らす皆さんのような方々、教育・福祉に関わっている方々、歴史・文化が好きな方々、そういう方々が観光を使って、海外、日本の各地から地域に訪ねてくる方々とふれ合いながら、例えば農業体験だとか、そば打ち体験とか、この地域の地籍をご案内していただくガイドツアーだとか、そんな形でそれぞれの産業や地域を活性化させる手段として観光を使っていただくというのが、観光まちづくりという言い方をさせていただいております。ぜひこれまでいろんな団体もそうですが、すでに何箇所かの地域の方と観光地域づくりの話をしてしながら、地域の課題は何だろうか、若い人が少なくなっているとか、観光客は来ているんだけどこの地区にはお金が全然落ちていないとか、素通りして排気ガスとゴミを出しているだけとか、年配の方が地域でできる仕事がないとか、農業収入がなくて担い手がなく農地が荒れているとか、いろんなご相談をいただきながら、それを観光で解決していくという方法を一緒に考えて、すでに金沢では地域の地籍を巡っていくガイドに、地区の方になっていただいて交流していただき、なおかつ稼いでいただいてという取り組みを始めていこうと話をしていたり、糸萱の農業体験をさらに広げていって、農業の体験だけでなく、農家に民泊する、そういう体験で修学旅行を呼び込んでいく、というような相談を、この出前相談会で始まっていますので、ぜひこの地区全体で呼んでいただいても結構ですし、小さい区で呼んでいただいてもお邪魔させていただいて、相談に乗りながらいかに観光を活かしていくかを考えていきます。このチラシの裏にいろんな取組を始めていきますので、この空白の部分に皆さんと一緒に考えた観光まちづくりのやり方を埋めていきたいと思っておりますので、ぜひ呼んでいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

市長： ただいま未来予想図をベースにこんなまちにしていきたいというのをお示しいたしました。これからは皆さんのお考えをお聞かせ願えればと思います。特別このテーマというのはなくして、フリーに意見交換してまいりたいと思っておりますので、この資料に載っていることでも皆さんがお考えのことでもかまいません。

今まで4地区でまち懇をやらせていただきました。4地区の皆さんのアンケート結果について、

10年後現在と比べて未来が持てるか持てないかという項目について、希望が持てるが16%、どちらかと言えば持てるが40%で、なんとか56%。わからないが18%、どちらかと言えば持てないが20%、持てないが3%ということで、悲観望している方が23%というのが4地区の状況でございます。茅野市の将来を考えて不安に感じる項目については、一番は地域を支える担い手不足、これが26%、二番目が地域を支える産業の衰退で18%、三番目が就職機会や職業の選択肢の減少15.6%というのが上位になっています。10年後の茅野市のまちづくりが目指すまちの姿はどうあるべきかについて、一番多かったのは子どもを産み育てる環境で19.1%、次が農業や観光、工業などさまざまな産業が整って活気があふれたまちで14.6%。高齢者や障害者が安心して暮らせるまちというのが14%というのが上位の三つでした。茅野市は福祉のまちづくりを進めてまいりました。一定程度の福祉環境は整ってきている。それをさらにきめ細かいものにしていかなければならないという思いはありますけれども、それ以上に担い手不足や産業の衰退に不安、危機感を持っているのかなと感じた4地区の結果です。

市民： ただいま10年先の未来構想をお聞きして、非常に力強く感じたわけですが、よくよく考えますとどこが一番核にならなければならないのかということと自治会・区であるということでしたが、現状、区のことをしっかりやりたいんですが、来期役員決め等で話を聞く中では、言葉は悪いですが自爆するしかない。高齢化、区費を払えと言いますが年金生活、空き家。活性化するための施策を話していただき、観光も工業も教育も大事ですが、中心になるのは区・自治会でないかなと思います。中には私の自治会はIターンの方のための土地と聞いておりました、一時は上原山工業団地の方も含めて多く入ってきていただいて、全国の多くの地区が入り混じった独特の場所であったんです。例を挙げますと、運営でなくてはならない経済的なものは、財産区ありませんし、支出と収入のバランスもあまりよくありません。出払いがあるんですが、出払いって何？出不足金ってなに？お墓もないラジオもないじゃないですが、そういう人との話の中で、最近では御柱にも多くの方に参加していただきました。余計な話をしましたが、まずやらなければならないことは、理想はいいと思いますが、ここをなんとかしないと、土台はないのに家を建てるといふ部分があるかと思えますし、10年後はここにいる方たち、私を含めて、まだまだ生きてやるという思いですが、家族を抱えておりますので心配です。その中で家を建てるにしてもその木をどうやって育成するのかは、すでに行っていなければできませんし、柿を食いたいといっても二年間で植えないと八年かかるわけですから、まず何をしなければいけないのかというところで私が考えているのが、我々が変わらなければ変わらない。私がいる職場でも子どもたちを変えるには自分たちが変わらないと変わらないと。先ほど教育分野で教育長がおっしゃられましたが、誰が教育をするのかと。実は私は私学ですから生徒がいないと生きていけません。だれから給料をもらうかということ子どもたち、親御さんからです。だから子どもたちに付加価値をつけて社会に出していかなければいけないというのが、トップダウン的ではありますが、公立はちょっと違います。タブレットやICT教育は誰が教育するのか。2019年で文科省がタブレットを持たせて教育をするといっていますが、茅野高校、諏訪実、

富士見高校、どの高校でもタブレットを全員に持たせるのかどうか。そのお金がどこから出てくるのかというのもあるんですが、そんな機械を持たせるよりも教える人間がいません。今本校では公開授業でICTとタブレットを使って、電子黒板やプロジェクターを使って授業をしました。長野県内の全公立高校に案内を出しましたが来てくれたのは佐久長聖高校だけでした。いろんな学校がありますが、教えろと言われたときに、タブレットを使えない教員に本当に今人材育成をしないと乗り遅れます。正直言って、清陵中学校は3年で卒業します。彼らはウォッシュレットを使っていますが、清陵高校はもし汲み取り式だったならこんなはずじゃなかったと教育の中で言われると思います。幼稚園、保育園、小学校の保護者の方が、何を見て良さを考えるかという不安もあります。そこで私が思うのは、周りが変わらないといけないというのはアメリカ大統領J・F・ケネディが言っていましたが、国家に何か求めるのではなくて、我々が何ができるのかということと、市民の方に発破をかけてもらいたいと思いますし、自分のできることをやりたいと思います。きっと10年先は10年先だからなあと大体の方は思うと思います。いい風を吹かせれば正のスパイラルが回ってここに書かれているような素晴らしい計画が成り立つのではないかなと思います。そこでもう一度戻しますが、一番のコアは区・自治会を活性化しないと教育にも目が向かない。それ以外の観光も農業も目がいかない。どうしたらいいんでしょうというのを思うところなんですね。ご意見も聞きながら、できる限りの協力ということでゆいわく茅野も含めて学びの場を提供したいと思います。市民の方はあまり自分が参加して市を盛り上げていこうというのではなく、なんとかしろよと。私もなんとかしろと言われて要望書を出している一人でございます。市民を動かすにはどうするか考えていただいて、御柱でも木と綱で曳くから絆が大事だと。絆を大事にする妙案を考えていただいて区・自治会を活性化する計画を立てていただきたいと思います。

市長： 大変校長先生らしい、なおかつ区長さんとしていろんなことで悩まれているんだろうなと思いお聞きしました。これをやったら区・自治会が活性化するというのはなかなか見当たらないわけですが、ポイントは、これを言ったらおしまいかもしれませんがおっしゃるように、個人が変わらないと変わっていかないだろうなと思います。どう変わるかですが、よく子どもたちに過保護と言いますが、災害過保護って知っていますか。どういうことかということ、自分の命は行政が守ってくれる、誰かが守ってくれると思っている国民が多くなってきている。自分の命は自分でしか守れないんですよ。どうやって自分の命を守っていくかが基本であって、その上で区、市、国が手を差し伸べるというのが基本にあるということをお忘れしている。そういうことを災害過保護と呼んでいるそうです。そういった意識が誰しもある。それをどう払しょくしてコミュニティを作っていくかがポイントにあると思います。じゃあどうやって作っていくのか、大きな課題があります。私はその一つとして、防災を取り上げて一昨年、災害に強い支えあいのまちづくり条例を作ろうと。そのねらうところは災害過保護をなくしていこうと。それが一番分かりやすい例かなと思います。その上で取組をしていくことで福祉にもつながっていく。また消防にもつながっていく。少しでも市民、区民の交流意識、自分のことは自分で

しなければならぬ、自分が変わらないと区が変わらないよという連帯の輪が広がっていけばいいのかなと思っています。ただ現実問題では、区の役に負担を感じる。それから区の体制もあるでしょうけど各個人の稼ぎの問題もある。やはりきちんと収入があれば役をやる余裕もあると思います。やはり茅野市がいろんな面で食っていける、稼ぎがある場所に、少なくとも諏訪圏域が、そうしていかなければ霞を食って生きていくわけにはいきませんので。防災という切り口でコミュニティづくりをしていくと同時に稼げる場所を充実させていかなければ、どちらが先ということではなくして、一緒にやっていかなければなと思っています。それを茅野市ばかりでなく諏訪圏域で取り組んでいかなければコミュニティが崩壊してしまう場面もあるのかなと思っています。それで学校の教育ばかりでなく、教育とは何かといったとき、生きる力を育むということだと思っています。もっと簡単に言えばどうやって食っていくんだということを教えてやるのが教育だろうと。会社に入るもの農業をやるのもいいし、自分の向き不向きがある。きちんと授けてやるのが教育かなと思っています。それは忘れてはいけない、教えていかなければいけない原点かなと思っています。ぜひ先生にもどうやって食っていくかということも必要なかなと思っています。コミュニティづくりは大事ですので、第5次総合計画にもしっかり入れ込んでいかなければいけないし、地区、区とつくっていかなければ、いくら行政がこうしようと言っても最後は自分がどう思うかだと思っています。答えになってませんが、絶対防災を真面目に考えれば今まで以上に区と関わる区民が増えていくと思いますので、市としてもいろいろな仕掛けをしていきますけれども、区民の皆さんにも取り組んでいただければと思います。

市民： 毎月回覧が行政から来るんですが、特に泉野は高齢化が進んでいまして、槻木でも200戸を切っております。槻木はたまたま財産区と行政が一緒になって区をやっていますので、そこに入区の問題がありますが、財産区民と新しく入ってくる人の公平をどう取っていくかが問題になっています。今年4軒新しく入区してくれたところがあります。ところが一人住まいの方など今年は13人が亡くなっているんですが、プラスマイナスで実質増ゼロということで、回覧もありがたいようなありがたくないような、市税が出ていますがだいたいゴミ箱へ行ってしまうのかなど。区の回覧を出してくれる努力はわかるんですが、今後は無駄なものは廃止してもらって、行政経費の節約を今後考えてもらいたいと思います。前の市長さんからパートナーシップのまちづくりと言って、何のことか分からなかったんですが、簡単に言って地域コミュニティの人に主体を置いて、行政はその支援だということで、今まで行政が一生懸命やっていたんですが、これからはお前たちがやれよと。困ったときだけ面倒みるよということじゃないかと。ですからさっき言われたように、ケネディ大統領が言ったことと同じですよ。これから10年も基本的にはそういう形で持っていくのかなど。教育・環境・福祉とか課題がありますが、10年間でやっていくのかなど。教育も文科省が変わっていくもんですから教育長も大変だと思っていますけれどもいい教育を継続していただけるようにお願いします。

市長： もう数年前に市からのいろいろな配布物は多いんじゃないかということで、広報ちのもの

月2回を1回にしてちょっと厚くなりましたけれど、そんなことでやっています。この回覧に限らずいろんな市の役で省略できるものは省略できないか見直しはしています。皆さんからもこれはもういいんじゃないかという意見をいただきたいなと思います。区の中でも独自の役があるかと思いますが。そういったもので整理できるものはないのかというのも必要ではないかと思いますが。パートナーシップのまちづくりですが、行政はもうしないから自分たちでやれよということではなく、どっちかという区・地区が主体であるということを考えていただいて、区ではこれをやるから足りないことは市で面倒をみてくれないかと、上からやれよということではなくて市民が主体でそこが行動を起こし、市が支援していくという流れですので、誤解なされないようにしていただきたいと思います。ただ行政からどうかという投げかけはさせていただきまうけれど、基本的にはそういうことで一緒にいいまちづくりをしていくということでございます。ぜひよろしくをお願いします。ひとつの例で言いますが、玉川地区ではけやきマルシェというのをやりました。玉川小学校の前のけやき通りを歩行者天国にして店を出すと、ものすごい数の玉川の人がいるんです。出店されたのは地元の農家の方がセロリを出したりしていましたし、いい感じでできていました。でも玉川地区からこんなことをしたいということで始まった、いい例だと思います。これからのまちづくりは、ゆいわーくの話もしましたが、いろんな人たちが、こんなことしたらどうかということからつなげていってまちづくりをしていくことが必要になると思っています。先ほどいっていた居場所は、絶対各区・自治会で設置していかなければいけないなと思います。公民館が一番難がないと思いますが、それにはそこには専用の人がいなければいけないと思います。昔は村の公民館には小遣いさんってのがいりませんでしたか。いろんな事務や雑用をやってくれていた気がしますけれど、たとえばそういう人の人件費を市が負担するからいい人材は地元で探してくださいよとか。そういったことを協働でやっていく。そんなことを考えています。

副市長：回覧板の話がでましたけれども、確かに配るのは大変だと思います。これから寒くもなります。区の回覧板も併せて回していると思いますけれども、ある地区では回覧板を逆手にとって手渡しすることで、一人世帯、高齢者への声かけをする方法で使ったらどうかということで、運協の中でどうやったら絆づくりができるかという中で話がでました。その中にたまたま学校の先生がいて、じゃあ回覧板の中に子どもの絵を描いて、そこに一声かけようとか、お元気ですかとか入れて手渡しする活動をしているところがあります。子どもが描いたものなので、じゃあちょっとやろうかと声をかけて渡すとか、そんな地域の見守りの方法もありますので紹介させていただきました。

市民：私はたまたま大総代にさせていただいて、今年の御柱ではいろいろなことを経験させていただきましたけれども、泉野地区の皆さんに支えていただいて、感謝でございます。本当にいい村に生まれて御柱をやらせてもらってよかったなという思いでいっぱいなんですけど、この場を借りて、ここにいる方はいろんな団体をやっている皆さんですので、お礼を申し上げた

と思います。そしてこの心のつながりがもっとつながっていけばいいかなと思って今日の話聞かせていただきましたが、先日の中道の区会でいつも決められた議題をやっていくのですが、これから中道のことを考えて、議題を進めることと別に、中道をどうするかを考える時間をとるという提案がございました。私はそのことがこれからとっても大事なかなと思って賛成しました。ここにいる皆さんは団体のリーダーだと思しますので、これからの泉野を考えていく機会をいろんな会合の場面で、今までを踏襲するだけでなくこれからの泉野をどうするかをの討論会とか意見交換を少し時間をとっていただくことが、これからの考える上で大事じゃないかと思うんですが、なかなかこれからの泉野を考える機会は、飲み会には出ますが、なかなかなくて、皆さん思いはあるんでしょうけど伝わらない部分、重ね合う部分がないと思います。基になるのは区民の結束だと思うので、これからどうするかという意識を持って意見を交わし合う集団になることが、大事なかなと思います。なかなかそういう場がないんですね。食堂も河原しかないんで、9時になったら帰れと言われるのでただ飲んで終わってしまう。そういうことで、みんなが溜まって飲んで語り合う場があれば違うのかなと思って、私は蔵をそういう場にしました。まだ誰も使ってくれないんですが、市長さんにも来ていただいて、我が家の蔵で泉野を語り合う機会を作りたいと思います。いつでも一言言っていただければと思います。

市長：ありがとうございます。早速時間を見つけて。確かにこういった場で、あるいは運協、区会で語り合うのも大事ですけども、なかなか教室みたいな状況で、型どおりの意見で、言いつばなしで終わりにになるので、もみ合っている形にしていくのは、呑みにけーしょんと言いますけれども、非常に大事だと思います。日付が変わるくらいまで呑んで。その中でいろいろ含まれてくると思います。ぜひ中道、小屋場、それぞれの区ごと、泉野地区でやってほしいです。先ほど高砂が呼んでほしいと言いましたが、彼も呑むのが好きで、しゃべるのが好きなので、いろいろ話がでてきます。それがストレートに中道に合うかとかは別問題ですが、こういう方向でというのは、4月から任期付き職員として採用してから役に立っておりまして、方向が固まってくる場合がございます。場所は広いんですか。

市民：最高で20人くらい。

市長：結構広いですね。名称は蔵でいいんですか。

市民：蔵です。

市長：そういったところでいろいろな語らいをしていけたら素晴らしいなと思います。高砂くんどうだい。

観光まちづくり推進室長： ぜひ一緒によろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。でも冗談でなくして、そういう泉野を考えることはやっていきましょう。

市民：それがアクティブラーニングでしょうか。

市長：そうですね。蔵でアクティブラーニング。

市民：さっき誰かがタブレット端末のことを言っていましたが、これは文科省が奨めていることなんですか。

教育長：次期学習指導要領が32年実施になるんですが、その素案のちょっと前のものが出てきていて、タブレット端末を使ったICT教育を奨めています。先ほど校長先生もおっしゃっていましたが、じゃあタブレットを一気にくれるかということそうじゃない。

市民：あまり期待できない。

教育長：だから市で買わなければいけないんですが、今から予算化して、だんだん揃えていきます。それから教員の方は、普通のパソコンはほぼみんな使えます。だからタブレットそのものを使うのは困難はないわけですが、その上でタブレットを使ってどういうことをやっていくか。今いろいろな事例を調べたり、Googleのような無料のサービスがあるので、その知恵を借りたりもしています。

市民：タブレットを用意すればソフトの部分は先生に使えるように教えられる。余所でけっこう有効に使っているところあるんですね。だからそういうところの使い方を勉強してやっていくということで、積極的にやっていくつもりがあるかどうか。

教育長：準備は進めています。それからもう一つの茅野市の使い方の特徴で、小学校同士の交流という、泉野小と玉川小がどういう交流しているかあとで校長先生に言ってもらってもいいと思いますが、向こうまで行くのは時間かかりますよね。なんとか実用化しようと思うんだけど、いわゆるテレビ会議方式のもの。児童会同士がなにか打合せするときに使ったり、授業で使ったりと、いろいろと準備をし始めています。ただ生きた人間の子ども同士の交流じゃないので、本当は顔を見てやればいいんですが。校長先生、どういう交流しているか短くていいので教えてください。

市民：子どもたちの交流は、連携の日を設けまして、東部中学校へ行って、学習発表会、歌で交流するとかそういうことをやっています。それから中学校の学習を見てくる、授業を受けてくる、中学の先生が来て学習をすることをやっています。泉野では廻り舞台、ふるさと祭り、朝読書で読み聞かせにいくとかをしています。小学校同士では中学校へ行って文化祭を見してきました。

市長：ICT教育を先進的に進めている自治体はかなりあります。その仲間に私も加わっておりまして、まだ事例を聞いている側ですけども、それを聞くにつけて事例を発表したいなと思えますが、タブレットがあつて、それが普通に使うのはできると思えます。ただそれを使い倒すといえますか、そういうことは先生がスキルをもっていなければいけない。日進月歩で技術が進んでいますから、専門の教師、先生という資格でなくしても、人材がいなければ使い倒すところまではいかないだろうと思えます。このICT教育だけでなく、諏訪東京理科大学の公立化も見据える中で、私もいろいろ視察したりして、たとえばGoogle本社に行って、こういう使い方もできるよということで、防災にも使えるなど。これを理科大の学生にも聞かせたいなと思って、これを市の施策に取り入れられないかなと、そんな模索をしています。やはり英語もそうですが、本気になってかなり大胆にやらないと役に立たない。一通りのICT教育で終わるだろうと思えますので、大胆に取り組んでいきたいと思えます。

市民：ありがとうございました。泉野は少人数なので、パイロット的にやりやすいところじゃないかなと思えますので、ぜひ協力してもらって早めに進めてもらいたいなと思えます。もう一点いいですか。こうやって10年先のことを考えると、年寄りが増えて、電動の車に乗って道を通るのが3倍くらいに増えるんじゃないかと思うんですが、道路の舗装にずいぶんお金をつぎ込むという話なんですが、歩道ができていところが、若葉台はできているけど、他は電動の車が通ると危険なところが多いわけで、そういうことも、全部やるのは大変なんですが、どこか10mでも作れば、将来こうなりますよと、そういうものが見えれば希望が持てる。できなくても、見せることは大事だと思えますので研究してもらえればと思えます。

市長：ありがとうございます。確かにそういう時代が来るだろうなと思えます。歩道の件ですが、広い道は槻木線も下からやっています、だいぶ形が見えてきました。できれば一つの懸案が解決するなと思えます。ただ宿中をどうするかは頭の痛い問題で、歩道をつけたら車の走る道がなくなる。そうなれば、たとえば一定の時間はシルバーカー専用の道で、むしろ自動車が入らないという逆転の発想をしないと大変かなと思えます。ただ県道とかはきちんと歩道整備しないとイケないと思えますし、いい雰囲気を醸し出したりするのかなと思えます。広い道の歩道整備は計画的に進めていきます。それから傷んだ道路を年間2億、5年で10億かけて、来年は3年目かな。泉野地区でも計画的に直すところは各区長さんに話がいていると思えます。区からの要望も加味する中で、特に宿中の道を中心に直していきますので、よろしくお願ひし

ます。

市民： 団員の活動服を揃えていただきありがとうございました。団員もそれなりの活動をしていかなければと思いますし、やっぱり防災の関係で、9月の防災訓練の中で、市が中心になっての連携ということで良かったかなと思います。一つ、防災無線を良いものを買っていただいたようなんですが、市と分団長が持っていますが、実際のところ使えない。難しくていいものなんですが、実際使えないのが実情です。お金をかけたので使えるようにならないといけないんですが。実際は携帯で連絡取り合っているんですが、有事の際はいろいろなところから連絡がくるので、折り返し電話をしていると時間がかかってしまうので、そういったところも考えていただければと思います。

市長： ありがとうございます。9月4日の総合防災訓練では無線でのやりとり、メールのやりとりをしました。非常に混乱はしました。最後は市の司令センターがパンクしてしまいまして、いろんな情報が来すぎて動かなくなり、いい訓練になりました。今その対処をしまして、近々区長会へ、結果はこうだった。これからこういう使い方をするというのをお返しします。これは常時やっていかないと、高性能な機器ですので、逆に把握しないと発揮できないと思います。毎年区長さんが代わっていきますので、なるべく3月～4月に毎年区長さんと市とでやりとりしないといけないなど。今回の場合、無線の環境もまだ完全に整備できていませんでしたので、余計混乱していましたが、ここで永明寺山と車山に中継局ができますので、11月初めで全部完成します。無線の環境はさらによくなりますので、とりあえずの使い方をお返しします。きちんと有効に使えるように訓練を重ねていきますのでよろしくお願いします。消防の方にも行っているんだよね。消防団にも返します。うまく使えば優れものですので、さっきのタブレットじゃないですが、無駄にしないように。10億近い金をかけていますので、使ってまいります。

今日は本当に前向きないい話をさせていただきました。何よりうれしかったのは蔵でアクティブラーニング。これが一番の成果かなと思います。なるべく早い時期に。いろいろな地区を考える取組が広がっていくことを一緒に取り組んでまいりたいと思います。泉野地区のますますの発展をお祈り申し上げまして、平成28年度のまちづくり懇談会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。